

【特別レポート】ウエルネス・ツーリズムと地域振興

**戦略的観光誘客促進事業として
さまざまな「連携」により生み出される**

“ウエルネス・プログラム”

静岡県・東部地区の取り組みを探る



ツアー・プログラム

1日目

- 14:00 集合、オリエンテーション
- 15:00 天城流湯治法 体験1
- 18:00 夕食
- 21:00 健康談義(自由参加)
- 22:00 就寝

2日目

- 6:00 朝の散歩(自由参加)
- 7:00 朝食
- 9:00 天城流湯治法 体験2
- 11:00 自由解散



スタッフの手厚いサポートで安心感を与える

プロジェクト概要

- ◆内容
体感! 天城流湯治法
- ◆日程
2004年11月23日(火)~24日(水)
- ◆宿泊先
ウェルネスの森 伊東
- ◆参加者数
18人
- ◆参加費用
個人参加2万4,000円/人、グループ参加1万6,000円/人、特別参加(65歳以上もしくは身体の不自由な方)現地無料

【関係者の役割・連携】

- ◆ツアーアクション
(株)SPI
- ◆プログラム提供・運営
NPO法人鍊堂塾
- ◆予算補助
静岡県観光交流室、伊東市観光課



「ウェルネスの森 伊東」には、クラハウスのほか温泉大浴場やタラソテラピー、ボディケアルームなどリラクゼーション機能が充実



自由時間にスタッフルームで施術を受ける参加者



他の客がいるなかでも、しっかりと告知によってスムーズな運営が可能



高齢者・障害者の旅をサポートする 「あ・える俱楽部」との連携で 年齢・障害を超えた 湯治体験ツアーを実施

最後に、高齢社会を迎え、今後さらに、「一子が増大するであろう介護ツアーセンター」についてレポートしてみる。

04年11月23日、伊東市の「ウェルネスの森 伊東」を開催場所に、高齢者、要介護者を対象にした湯治体験ツアーセンターの主催で行なわれた。とともに同社は、添乗員など旅行人材に特化した人材派遣会社としてスタート。そのなかで、将来の有望市場での得意分野の確立を目指し、高齢社会の進展と並行して高まる旅行客の高齢化に対応するサービス提供に着目。超高齢者の旅を支えるトラベルヘルパー(ヘルパー2級保持者)の育成と派遣、バリアフリー旅行の手配、さらに介護旅行の企画販売を開始している。

同社は「あ・える俱楽部」という名称で会員制のクラブを組織しており、約8000人の会員を有し、今回は首都圏に居住する約2000人の会員を対象にダイレクトメールにより参加者を募集。18人(日帰り参加4人、当日参加4人含む)の申し込みがあった。いずれも介護や介助を必要とするわけではないが、現地到着までの不安がある人に對してはホテルまでトランベルヘルパーが同伴、サポートをしている。

まずは全員がホテルロビーに集合して、ホテル施設の案内やスタッフの紹介、プログラムに関するオリエンテー

のほかの層にも温泉療法を核にした商品へのニーズは確実にあるはずですか、さまざま提案ができるでしょう」と語る。また、伊豆地区は温泉が豊富で旅館やホテルの数も多く、観光地としての基盤は充実しており、東京をはじめ首都圏という大きなマーケットも抱えている。そこに温泉療法を提供する杉本氏のような人もいる。しかし、それらがなかなか有機的にリンクしていないのが現状だ。その点について、「観光資源があり、それを効果的に提供してくれる人がいて、施設もある。そして、温泉による健康増進や癒しの効果を求める人も多い。それらを結びつけていくのが私たちの役目だと思います」と、今後の取組みへの意欲をみせている。

今回の受け入れ施設であるウェルネスの森 伊東はホテルだけでなく、同じ敷地内に分譲マンションがあり会場となつたクラハウスは共同利用している。そのため、今回のツアー受け入れに際してはホテル宿泊客はもちろんマンション住人に対しても団体の利用があることを事前に告知、スマートな利用ができるよう配慮された。「今回のような湯治プランなどの受け入れを積極的に検討していく」としている。

以上、みてきたように、温泉療法や自然体験といった地域の観光資源を活用があるのはうれしいことです」(支配人代理 山本忠義氏)と、今後は湯治プランなどの受け入れを積極的に検討していきたいとしている。

人代理 山本忠義氏)と、今後は湯治プランなどの受け入れを積極的に検討していきたいとしている。

シヨンを行なった後、参加者それぞれの健康状態を確認。同ホテルに併設するクラハウスに移動し、運動浴プールを使って天城湯治法の体験が行なわれた。温水のなかで行なうストレッチなど、はじめ戸惑いを見せた参加者も、だいぶ慣れて、「身体が楽に動く」「気持ちがいい」といった声が多く聞かれた。1時間半ほどで湯浴メニューを終了し、夕食までの間は自由時間となつたが、その間、スタッフルームでは杉本氏とともに本ツアーセンターに参加した鍊堂塾のスタッフによる指圧やマッサージなどの施術が行なわれ、腰や足などに痛みをもつ参加者がつぎつぎに訪れた。

夕食後の健康談義(自由参加)で初日のプログラムは終了。翌日は朝の散歩(自由参加)はじめり、2回目の湯治体験を終えて昼前に自由解散となつた。今回は対象が高齢者であることから、身体に負担のない湯治体験だけに絞ったプログラムとなつたが、温泉療法は参加者の状態に合わせて自在に対応できることから、幅広い層に向けて高い有効性を示すツアーセンターになつたといえるだろう。

SPI 社長篠塚恭一氏は「温泉療法」というのは旅行商品を構成する素材として非常に興味深いと思います。今後これをどう商品化していくか。私どもが対象とするのは障害をもつていたり、要介護状態の高齢者の方々ですが、こ

用したウェルネス・プログラムは、健康増進や癒しを求める消費者のニーズに合致するものであり、杉本氏をはじめ各NPO、地域住民、そして行政が取り組む地域活性化、観光誘客の大きな武器になりうるであろう。

とはいえ、観光誘客商品として定着するには課題もある。恒常的にプログラムをつくり、提供をしていくための人材の問題だ。今回のレポートでも、人材育成をにらんだ取組みがみられたが、今後のさらなる注力が期待されるところだ。

杉本氏は、「私たちの活動が、人と地域と地域の橋渡しになれば幸いです。なによりも子どもからお年寄りまで、すべての人に心身ともに健くなつてもらいたい」と語る。今回紹介した以外にも、鍊堂塾では、伊豆の海を舞台にシーカヤックの体験ツアーセンターを実施しているNPO海漕塾や中国医学に関する教育啓蒙に取り組むNPO日本健康科学会、離島振興を目指すNPO島づくり式根やNPO海士人などの連携によるさまざまなプロジェクトを進めているという。

NPOの広域連携による活躍が期待されるなか、また民間と行政が一体となつた地域振興のためには、同氏のよな「翻訳者」が必要なのである。今後、さまざまな地域において単なる委託業務ではない真の連携が進むだろうか。